序章――社会的差別にかかわる歴史的研究の意義
第一節　社会的差別の諸相　7
第二節　社会的な結合と排除　8
第三節　部落と寄せ場の相関関係　12
第Ⅰ部――都市部落の構造と生活
第一章――都市部落史研究をめぐる課題と方法　22
第一節　第Ⅰ部の課題　22
第二節　第Ⅰ部の方法と視点　39
第三節　第Ⅰ部の概要　46

第一章―西浜部落と学校経営　55

第一節　本章の課題　55

第二節　栄小学校の沿革と大小便汲取問題の変遷　57

第三節　西浜町財政の収支構造　65

第四節　大小便売却金の学校費への充当　67

第五節　小括　75

第二章―西浜部落と学区問題　85

第一節　本章の課題　85

第二節　西浜町の市域編入　86

第三節　西浜部落の地域構造　96

第四節　学区分合問題の展開　99

第五節　小括　107

第四章―西浜部落と皮革産業　120

第一節　本章の課題　120

第二節　近代皮革業と西浜部落　122

第三節　新田帯革の創業と事業展開　123

第四節　新田帯革の経営実績　126

第五節　新田長次郎の経営理念　131
第六節　新田長次郎の経営資質　135
第七節　小括　139

第五章——西浜部落と方面委員　151

第一節　本章の課題　151
第二節　沼田嘉一郎の略歴　152
第三節　大阪市政と沼田嘉一郎　157
第四節　方面委員と沼田嘉一郎　163
第五節　小括　172

第Ⅱ部——寄せ場の形成と展開

第六章——寄せ場と日傭労働研究をめぐる課題と方法　186

第一節　第Ⅱ部の課題　186
第二節　第Ⅱ部の方法と視点　193
第三節　第Ⅱ部の概要　205

第七章——釜ヶ崎の形成　210

第一節　本章の課題　210

第二節　近世身分制の解体と釜ヶ崎　220

第三節　第一次市域編入と釜ヶ崎　215

第四節　釜ヶ崎の形成過程　217

第五節　釜ヶ崎の表象　223

第六節　小括　225

第八章　釜ヶ崎の生活構造　234

第一節　本章の課題　234

第二節　維新期の身分政策と木賃宿　235

第三節　木賃宿への段階的統制　237

第四節　宿屋営業取締規則と木賃宿街の成立　241

第五節　一九二〇年代の住宿人の生活実態　246

第六節　小括　253

第九章——総力戦体制期の釜ヶ崎　261

第一節　本章の課題　261

第二節　一九三〇年代の日傭労働者　263

第三節　町内会と日傭労働者　270
第四節　賃金統制と日傭労働者　279
第五節　小括　282

第一〇章――社会調査と釜ヶ崎　291

第一節　本章の課題　291
第二節　調査の本格的開始と都市下層社会　293
第三節　釜ヶ崎をめぐる調査　298
第四節　衛生観と木賃宿の調査　301
第五節　小括　303

終章――近代都市における部落と寄せ場の歴史的位置づけ　310

第一節　論点の整理　310
第二節　課題と展望　317

あとがき　323
図表一覧　330
索引　338